

高等学校教職5年経験者研修講座報告

商業科 小 西 一 幸

【日程・実施会場・内容】

○高等学校教職5年経験者研修講座Ⅰ

平成26年9月5日（金）

秋田県総合教育センター

（10:00～12:00）

不登校・いじめ・問題行動への具体的な対応
グループディスカッション

（13:00～16:15）

これからの高等学校に求められる授業改善
教科別協議

○高等学校教職5年経験者研修講座Ⅱ

平成26年10月31日（金）

秋田県立能代松陽高等学校

（10:00～10:20） 諸連絡

（10:30～11:15） 授業参観

（11:25～12:10） 研究授業

（12:45～13:30） 研究授業

（13:40～15:00） 研究協議

教諭として勤務し、早いもので5年が経過した。今回の5年経過研修を受講して、2つのことに改めて気づくことができた。

1つ目は善し悪しに拘らず「可能性」を見いだすことである。

高等学校教職5年経験者研修講座Ⅰの午前に行ったグループディスカッションの中で、「円環的思考」について触れた。「円環的思考」とはひとつの事象について様々な予想や仮説を立てて物事を考えることである。普段から生徒の可能性については、十分に意識していたつもりであったが、改めて事例実践を用いて考えてみると、まだまだ足りないということがわかった。

日頃生徒と接している中で、特に担任の立場でその時間が多ければ多いほど、知らず知らずの内に生徒にフィルターをかけて見てしまっているのだろう。思い返すと「この生徒は〇〇だ」「〇〇に違いない」と決めつけて接していた場面を思い出し、生徒の可能性をつぶしてしまっていると思うと実に申し訳ないと思う。馴れ合いや仕事慣れは自分の目を雲らせることだと身

にしみて感じた。

2つ目は教科指導・教材研究の大切さである。私の担当する商業科の科目は、実務スキルを身につけるといえる意味合いが強い科目である。生徒たちからすると国語や算数・数学など小・中学校で慣れ親しんできた科目と違い学習イメージがしづらい科目であるとも言える。しかし、商業科目は変化の激しい現代社会を生き抜くための知識・技能を身につける唯一の科目であるとも言える。

ビッグデータから目的とする1つの答えを導き出す「情報処理」や企業の経営戦略に関わる会計情報を読み取る「簿記・会計」など企業の中核を担うための科目ばかりである。

今回能代松陽高校で行った授業は商業科目の基礎科目である「ビジネス基礎」の中の「企業倫理」という単元である。私はCSR活動（企業の社会的責任）を題材に取り上げ、天然原材料を用いた台所洗剤を開発する会社のCSR活動についての授業を展開した。十分に授業の準備をしていたつもりであったが、授業時間45分をオーバーしてしまい結果的に何を教えたかった授業なのかわからない内容となってしまった。

研究協議の中で指導主事の山脇先生から次のような助言をいただいた。

「授業は生徒に考えさせ、生徒同士が最適な答えを導くことに意味がある。教師はその手助けをする立場である。1時間の授業の中で発問すべきことを1つないし2つに絞り込んでおくことで成り立つ。時間通りに終わらすためだけの指導案を立ててはいけない。」

私は、普段とは違う生徒たちが相手だということで、知らないうちにあれもこれもと1時間の中に詰め込んでいたようで、その結果不完全燃焼な1時間になった。前述したように、生徒たちに馴染みの少ない科目を教える際にこれでは、重要な科目と思ってもらえないと痛感した。

今回の研修で身についたことや改めて感じたことをもう一度整理し、10年経験者研修に向けて研鑽を図ろうと思う。

高等学校授業力向上研修講座（８年研）報告

保健体育科 佐藤 寛 仁

〈はじめに〉

高等学校授業力向上研修講座は、採用３年目の教員と８年目の教員が一緒に行う、秋田県独自の研修である。小グループによる授業分析や採用３年目の教員に助言するなどの実践的な研修を行い、採用８年目の教員の授業力を高めることを目標としている。互いの授業をDVDで視聴し、グループワークで授業の改善点等について議論した。今年度で採用から８年となるため、受講した。

〈実践した授業について〉

今回の研修では、自校の授業をビデオで撮影し、20分程度に編集したものをDVDにダビングして提出することとなっていた。私は担任している１年Ｂ組の保健の授業を撮影した。授業詳細は指導案にあるとおりだが、「飲酒と健康」を取り上げた。ICTを活用し、生徒に興味関心を持たせ、飲酒における問題点について考えるという授業の流れを考えていたが、生徒を活動させる場面が少なく、もっと生徒の意見が出るようなグループ活動も併用して行えばよかったと反省した。

〈研修における協議について〉

授業視聴後、ワークショップ型の討論を行った。事前にそれぞれが協議の視点を設定し、それについて議論を行う形で行われた。私は「飲酒の問題点について考えることにつながるような手立てや方法」を視点として設定し、議論を行った。ICTの活用という点においては、他の先生方からも高評価をいただくことができた。また、授業の進め方、話し方においても、温かいご意見をいただくことができ、やってきたことに自信を持つことができた。改善点としては、自身の反省点にもあったが、「生徒を動かす」という点である。多くの先生方からもっと生徒の活動を生かし、そこから考えることにつなげるような授業展開が必要だという意見をいただいた。

〈研修を通して〉

５年研を終えてから、さらにICTを柔軟に活用した授業を行おうと工夫を重ねてきた。ある程度形ができ、勝手に満足していた部分があるということを、今回の研修を通して痛感した。やはり授業の主役は生徒であり、生徒が主体的に取り組めるような授業展開を主に取り組んでいかなければならないと思う。この研修後の授業では、グループ活動を併用しながら、生徒の考えを答える場面を増やしていった。その結果、授業で眠りかけるような生徒や、授業に参加しているかどうかかわからないような生徒がほとんど見られなくなった。何より、自分の考えを話す生徒が増えたことが大きかった。今後も授業改善を意識し、更に効率的かつ効果的な授業を行えるよう努力していきたい。

第1学年B組 保健体育科（保健）学習指導案

日 時：平成26年9月19日（金）3校時
授 業 者：佐 藤 寛 仁
使用教科書：最新高等保健体育（大修館書店）
使 用 教 室：1年B組教室

1 単元名 現代社会と健康 「飲酒と健康」

- 2 目 標
- ・未成年者の飲酒は法律で禁止されているが、どんな問題があるか理解する。
 - ・飲酒に関わる健康問題を理解し、将来に役立てることができる。

3 単元と生徒

男子19名、女子21名のクラスである。授業への取り組みがよく、何事にも積極的に取り組む反面、落ち着くまでに時間がかかる部分がある。様々な観点から飲酒について考えさせ、安易な考えでは自らの健康を害すること、命に関わることを理解させるとともに、将来の飲酒との関わりについて考えさせたい。

4 指導と評価の計画

※省略 本時は飲酒と健康の1／2時間

5 本時の計画

- (1) ねらい 飲酒の問題とその対策について理解する。
(2) 展開

段階	学 習 活 動	指導上の留意点	評価の規準
導 入	・お酒のCMを見て感じたことを書き出し、発表する。 ・家族の飲酒状況から、自分自身がお酒に強いかどうか考える。	・実際のテレビCMを見せ、感想を聞き出し、まとめる。 ・挙手させ、クラスの割合が一般の割合とどう違うかについて説明をする。 ・本時のねらいを提示する。	
展 開	・教科書を読み、アルコールの働きについて考える。 ・教科書を読み、未成年者や妊婦の飲酒の危険性について考える。	・教科書を読んでもらい、お酒に含まれるアルコールの働きについて考えられるよう、パワーポイントを使って説明をする。 ・教科書を読んでもらい、未成年者がなぜ飲酒を禁じられているのか、妊婦の飲酒にどんな危険性があるのか、パワーポイントと図も活用しながらわかりやすく説明をする。	・飲酒における問題点を理解している。（プリント等）（D）
ま と め	・本時の内容を確認し、次回の内容を確認する。	・本時で行った内容を簡単にまとめて説明し、次回で学ぶことをわかりやすく説明をする。	

（A）興味・関心・態度 （B）思考・判断 （C）技能・表現 （D）知識・理解

高等学校教職10年経験者研修報告

～10年を振り返って～

商業科 小林 克

11年前、30代だった私は秋田県立西目高校に勤務していた。7年で2校しか臨時講師の経験がなかったため、3校目の新天地において初任者として働くことに期待と新鮮さを抱いていた。あれから10年という時間を教諭として過ごし、今年度は10年経験者研修に参加した。まずはこれまでの10年を簡単に振り返ってみたい。

- ①総合学科は前任校の増田高校に引き続きの勤務であったのでスムーズに対応出来た。
 - ②初の担任は1年部だった。保護者への対応について多くのことを学んだ。
 - ③2年担任として初めて修学旅行の引率を経験した。生徒の行動が心配で仕方がなかった。
 - ④卒業生を出した。国公立大、私大、短大、専門学校、就職、公務員…進路は様々であった。
 - ⑤1年副担任となり、少し客観的にクラス経営をみる事が出来た。
 - ⑥2年副担任であったが、生徒会とその会計の仕事をやり、つらいことが多かった。
 - ⑦インターハイ会場地担当教員として学校の現場を週3日離れ、学校という職場以外の仕事を学ぶことが出来たことは貴重な体験だったと今は思える。
 - ⑧8月31日まで、インターハイの仕事をし、年度の途中で学校に復帰した。
 - ⑨2年担任となり、成績不振者に対して家庭訪問を繰り返し行った。
 - ⑩秋商へ異動し、1年担任を務めた。母校だが、学校に慣れるのに多少時間がかかった。
- 1年間を1行で表すのは難しいが、実に充実した時間を過ごしてきた。

なかでも担任としての経験は貴重であった。不登校や怠学で学校を休みがちになる生徒がいたり、友人との関係が崩れ、前向きに登校出来なくなったり、勉強が嫌いで赤点が多いのに大学に進学したいという矛盾する進路目標を掲げる生徒がいたり、問題行動・成績不振で家庭訪問の機会を増やしてくれる生徒がいたり……様々な生徒がいて、様々な対応が出来たことは私にとってはまさに財産である。

部活動、サッカーをとおしての出会いや経験も貴重であった。平成19年秋田国体、インターハイ、全国高校サッカー選手権大会に関わり、秋田県選抜U16の監督も経験した。賞賛に値する勝利もあれば、期待を大きく裏切る敗北もあった。

このように振り返ってみると、多くの人と出会い、関わり、学び、多種多様な経験の積み重ねが今日の自分を形成していることがわかる。保護者、地域の方々にも多くのことを学ばせていただいたが、先輩教員の適切な助言は、様々な課題・困難の解決に向けて力を与えてくれた。

10年を経過した今、部分だけではなく、学校全体に関わっていく視野と行動力、若手教員に対する適切な助言、指導などが求められている。今まで培ってきた経験を後輩教員たちに引き継いでいくこともこれからの非常に大事な仕事となる。これからの10年、20年がより深みのあるものとなるよう、前向きに学び続け、質の高い仕事を心がけていきたい。

選 択 研 修 報 告 書

所 属 校	秋田商業高等学校	職・氏名	教諭 小 林 克
研 修 先	かがちゅうスポーツ有限会社		
研 修 期 間	平成26年 7 月23日（水）～平成26年 7 月25日（金）		
1 研修の概要 （1日目・2日目） 8：30～9：00 出勤 会社周辺・店内を掃除、商品陳列など開店の準備 9：00～12：00 店内での販売活動の補助 12：00～13：00 休憩 13：00～16：30 外回り営業の補助 16：45～17：15 翌日のスケジュールの確認など （3日目） 8：30～9：00 出勤 会社周辺・店内を掃除、商品陳列など開店の準備 9：00～12：00 店内での販売活動の補助 12：00～13：00 休憩 13：00～16：15 外回り営業の補助 16：15～17：15 本研修の振り返り			
2 研修の成果 日頃、消費者という立場で生活している私にとって、「ものを売る」という活動はあまり経験のないものであった。まずは、掃除の徹底、商品の陳列を行い、お客様に快くご来店いただける環境整備を心掛けた。しっかりと時間をかけて細かいところまで気を配ることができた。 店内での販売活動の補助では、商品説明の難しさを知った。これは商品に対する知識だけでなく、利点、効用、他社メーカーとの相違点など、様々な知識が必要であったため、初日は見学と勉強をさせてもらうことになった。各種商品の特徴を完璧に覚え、それをお客様に丁寧に説明し、伝えることの難しさを味わった。 午後は店を離れ、様々な場所に出かけた。研修前は外回り営業について「商品代金の回収がメインだろう」と考えていた。しかし、それだけではなく、挨拶回りをしながら、また仕事をいただいたり、各スポーツの大会の開催情報をもらえたり、消費者のニーズや世の中の流行を肌で感じたり、外回りには様々なビジネスチャンスがあることを知った。 教科・商業を担当している私にとって、教科書で教えている「ビジネス」を体感できたことは大変意義深いことであった。今回体感したことを授業をとおして生徒たちに伝えて還元していきたい。			

特定課題研究レポート

所 属 校	秋田市立秋田商業高等学校	職・氏名	教諭 小 林 克			
研 究 分 野	A 教科指導 (B) 学級・学年・学校経営 C 生徒指導 D 進路指導 E 特別活動に係る指導 F 総合的な学習の時間に係る指導 G 特別支援教育に係る指導 H その他					
研究テーマ	1 日 5 分間の言語活動					
1 研究の概要						
日頃私は、基礎的・基本的な知識・技能を学習に主体的に取り組むことによって身に付け、それらを活用して思考力・判断力・表現力を適切に発揮していく能力を生徒に身に付けさせたいと考えている。このような能力は突然、突発的に身につけていくものではなく、小さなことの積み重ねで習慣化され、体に染みついていくものだと思う。そのため、毎日の朝SHRの時間を用いて取り組めないか考えた。 ①登校後、新聞に目をおし、本日の記事を選び、コピーし、切り取り、クラス全員分のプリントを準備する。 ②8：45～8：55（1校時は9：00～）の朝SHRの中で、必要な連絡を済ませる。 ③新聞で読ませたい記事をコピーしたプリントを配布する。 ④A 全員が読み、読んだ感想や自分の考えを代表者1名に1分間で発表させる。 ⑤A 発表者以外はその発表のメモをプリントの空欄に要約し、書き込む（1分間で）。 ⑥A 自分の考えとの違いがあれば赤線を引く。 ④B 全員で読み、読んだ感想や自分の考えをプリントに1分間で書き込む。 ⑤B 1名に発表させ、他者の意見で良い部分があればメモをとる。 （今年度の12月まではAのやり方で、1月からはBのやり方で実施している） 本校では5分間の「基礎学力向上テスト」を実施する日や、連絡事項・配布プリントが多い日などがあり、毎日実施するというわけにはいかなかったが、時間的な余裕がある日は実施した。 新聞記事の内容は、社説だけではなく、教育、経済、マーケティング、時事問題、スポーツに関する記事などジャンルに偏りが無いよう心がけた。さがけ、朝日、読売、日本経済新聞を活用した。6月は教育実習生がクラスに配置されたので、教育実習生の視点からも記事を選んでもらった。						
2 成果と課題						
進学・就職どちらにおいても面接試験が課せられるケースが多い中、自分の考えを相手に伝えるという能力は是非とも身に付けさせたい能力である。この取り組みを1年間行うことによって、人前で話をするに対する抵抗感がなくなったり、他者の意見を聞く耳を持ち、必要があれば他者の意見に対して反論を持つなど、クラスの生徒の成長や変化を感じた。また、短時間での取り組みと言うこともあり、様々なことに対し、集中力を発揮することができるようになった。 課題としては、新聞記事をこちらが準備した点が挙げられる。どのような「ネタ」を提供すればクラスのみんなに、より効果が出るのかを考えさせるという面から、記事を生徒に準備させても良かったのではないかと反省している（しかし、新聞を購入していないという家庭もある）。また、新聞だけではなく、雑誌、インターネットなど材料が偏ることがないように工夫についても考えるべきだった。 このような点を反省しながらも、3年生になる来年度もバージョンアップして取り組んでいきたい。1日5分間の言語活動（記録、要約、説明、論述など）において「思考力・判断力・表現力等」の育成が効果的に図られたかどうかは現時点では定かでないが、今後、進路決定の際に効果や成果が表れることを大いに期待したい。						

Ⅱ 校内年間研修計画

秋田市立秋田商業高等学校

研修教員：小林 克（商業科・2年C組担任）

校 長：鎌田 勝

教 → 教科指導等研修

生 → 生徒指導等研修

実施月日 (曜日)	研 修 内 容	研修方法・形態	全体・個別の区別	時間割内・放課後の別	研修時間	研 修 指 導 者
4/11(金)	10年研修の進め方	生 講義→一般研修	個別	内(5・6)	2	研修主任
5/23(金)	教育目標の達成と学校経営について	生 講義→一般研修	個別	内(5・6)	2	校長
6/9(月)	P T A・地域との連携について	生 講義→一般研修	個別	放	2	総務主任
10(火)	教材研究と指導案の作成(1)	教 授業研究	個別	放	1	商業科主任
11(水)	教材研究と指導案の作成(1)	教 授業研究	個別	放	1	商業科主任
12(木)	教材研究と指導案の作成(1)	教 授業研究	個別	放	1	商業科主任
13(金)	教材研究と指導案の作成(1)	教 授業研究	個別	放	1	商業科主任
16(月)	授業実践に基づく授業研究(1)	教 授業研究	個別	内(4)・放	2	商業科主任・科員
18(水)	教材研究と指導案の作成指導(1)	教 授業指導	個別	放	2	商業科主任(若手教諭)
19(木)	授業の参観と助言(1)	教 授業指導	個別	内(1)・放	2	商業科主任(若手教諭)
7/11(金)	法規に関する事例研究	生 講義→一般研修	個別	内(5・6)	2	教頭
8/22(金)	選択研修の成果と課題	生 講義	個別	内(4)	1	校長
25(月)	高校教育の現状と課題	生 講義	個別	内(3)	1	教頭
27(水)	不登校・いじめ等の未然防止・早期発見及び解決策について	生 講義	全体	放	2	外部講師・生徒指導主任
9/22(月)	生徒分析と個人面談計画の作成	生 講義→一般研修	個別	内(2・3)	2	学年主任
24(水)	個人面談実践に基づく研究	生 一般研修	個別	放	1	学年主任
10/15(水)	保健室利用の実態について	生 講義	個別	放	1	養護教諭
17(金)	教育課程の編成・教務内規について	生 講義→一般研修	個別	内(5・6)	2	教務主任
29(水)	県商研研究大会参加	教 授業研究	全体	1日	6	主催者
11/4(火)	教材研究と指導案の作成(2)	教 授業研究	個別	放	1	商業科主任
5(水)	教材研究と指導案の作成(2)	教 授業研究	個別	放	1	商業科主任
6(木)	教材研究と指導案の作成(2)	教 授業研究	個別	放	1	商業科主任
7(金)	教材研究と指導案の作成(2)	教 授業研究	個別	放	1	商業科主任
11(火)	授業実践に基づく授業研究(2)	教 授業研究	個別	内(4)・放	2	商業科主任・科員
19(水)	教材研究と指導案の作成指導(2)	教 授業指導	個別	放	2	商業科主任(若手教諭)
20(木)	授業の参観と助言(2)	教 授業指導	個別	内(4)・放	2	商業科主任(若手教諭)
12/11(木)	特定課題研究の中間まとめ	生 一般研修	個別	内(6)	1	研修主任
12(金)	部活動・生徒活動に関する事例研究	生 講義	個別	内(5)	1	特活主任
16(火)	不登校・いじめ等の現状と課題	生 講義	個別	放	1	スクールカウンセラー
1/23(金)	進路指導の現状と課題	生 講義→一般研修	個別	内(5・6)	2	進路指導主事
2/13(金)	特定課題研究の成果と課題	生 一般研修→講義	全体	放	2	校長以下全員

実施日数 合 計	研修方法・形態別の研修日数 (時間数)				時 間 割 内 研修時間計 (a)	放 課 後 研修時間計 (b)	研 修 時 間 合 計 (a + b)
	講 義	授業研究	授業指導	一般研修			
25	14 (15)	11 (18)	4 (8)	10 (10)	30	21	51

第1学年B組 商業科（ビジネス基礎） 学習指導案

日 時：平成26年9月9日（火曜日）3校時
人 数：40名（男子19名、女子21名）
場 所：1B教室
指導者名：商業科 小林 克
使用教材：ビジネス基礎（実教出版）

1. 単 元 名 第2章 経済と流通の基礎 3節 経済活動と流通
4 流通をとりまく環境の変化

2. 単元の目標
- ・流通活動の経済的特徴や環境による変化について自ら意欲的に考えたりまとめたりできるようにする。
 - ・流通活動全体に共通する経済的特徴を、小売業の業種・業態の変化や電子商取引の発展とかかわらせて理解できるようにする。

3. 単元と生徒
- （教材観）消費者ニーズの多様化について考えさせ、それに伴い販売の考え方が変わってきたことについて、しっかりと理解を深めさせる。また、こんにち、電子商取引が活発化していることも理解させる。
- （生徒観）男子の一部の生徒に元気があり、そのためか、クラス全体で発問などへの反応が良い。話し合いなどにも意欲的に取り組む。学習成績は平均的に良い。
- （指導観）日常の生活に関連づけながら理解を深めさせる。

4. 指導の評価と計画

- (1) 指導計画 第2章 経済と流通の基礎
- 1節 経済のしくみとビジネス（3時間）
- 2節 社会の変化とビジネスの発展（1時間）
- 3節 経済活動と流通（4時間）【本時3／4】

(2) 評価計画

	A 関心・意欲・態度	B 思考・判断・表現	C 技能	D 知識・理解
評価規準	自ら意欲的に具体例をあげようとしている。	身近な日常生活をもとに自分の考えをまとめ、表現することができる。	消費者ニーズの多様化における高級化と個性化について説明することができる。	消費者ニーズの多様化について理解している。

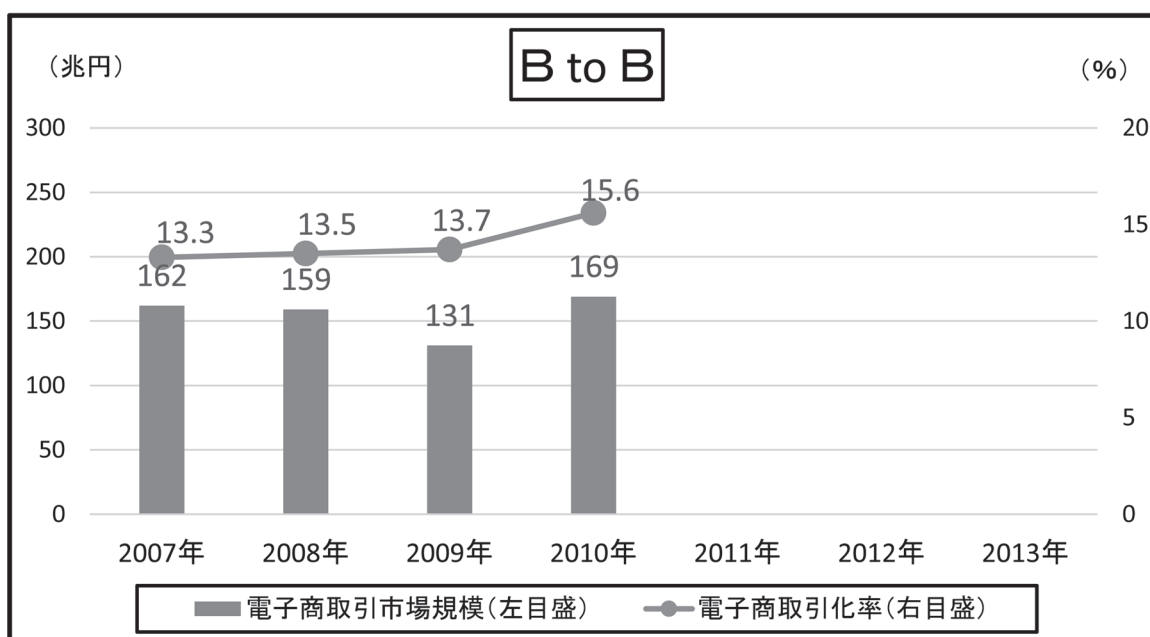
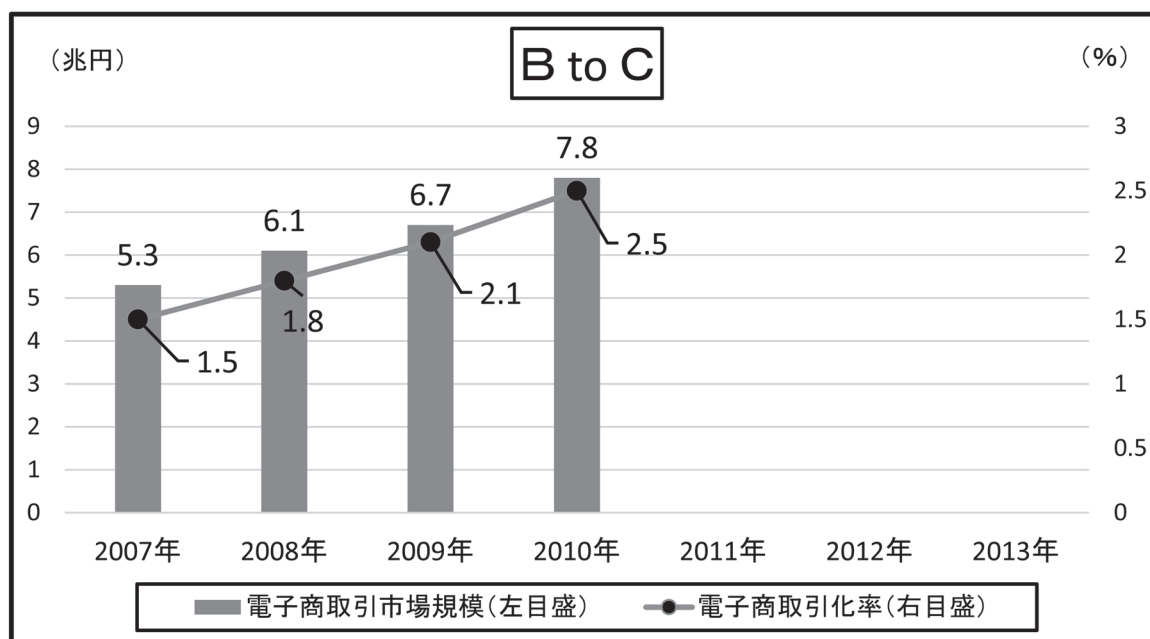
5. 本時の計画

- (1) ねらい 経済成長と消費者ニーズの変化の関係について考え、流通事情の特徴を理解する。
電子商取引が活発化していることを理解する。

(2) 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点	評 価
導 入 5 分	プリントで復習を行う。	流通機構は3つに分けられることを確認する。 生活用品と産業用品を確認し、その流通経路についても再確認する。	
展 開 40 分	消費者のニーズの変化について身近な生活に関連づけて考える。 販売の考え方の変化について考える。 電子商取引とその活発化について考える。 電子商取引の進展について考える。	消費者ニーズの多様化には高級化や個性化があることを確認する。 小売業は「何を売るか」から「何をどのように売るか」へ変わっていったことを確認する。 インターネットは情報発信だけではなく、双方向通信性であり、代金の決済まで行うようになってきたことを説明する。 教科書には載っていない。 2011、12、13年はどうであったかを予想させたうえで正解を伝える。	考えて、自分の意見をしっかりと発表できるか（思考・判断・表現） 業種と業態の違いについて理解することができるか（知識・理解） 企業と消費者や、企業どうしの電子商取引について理解することができるか（知識・理解）
整 理 5 分	本時の学習内容を確認する。	本時の学習内容を再度確認し、次時の予告をする。	本時の学習内容を理解できたか（知識・理解）

■ 電子商取引の進展



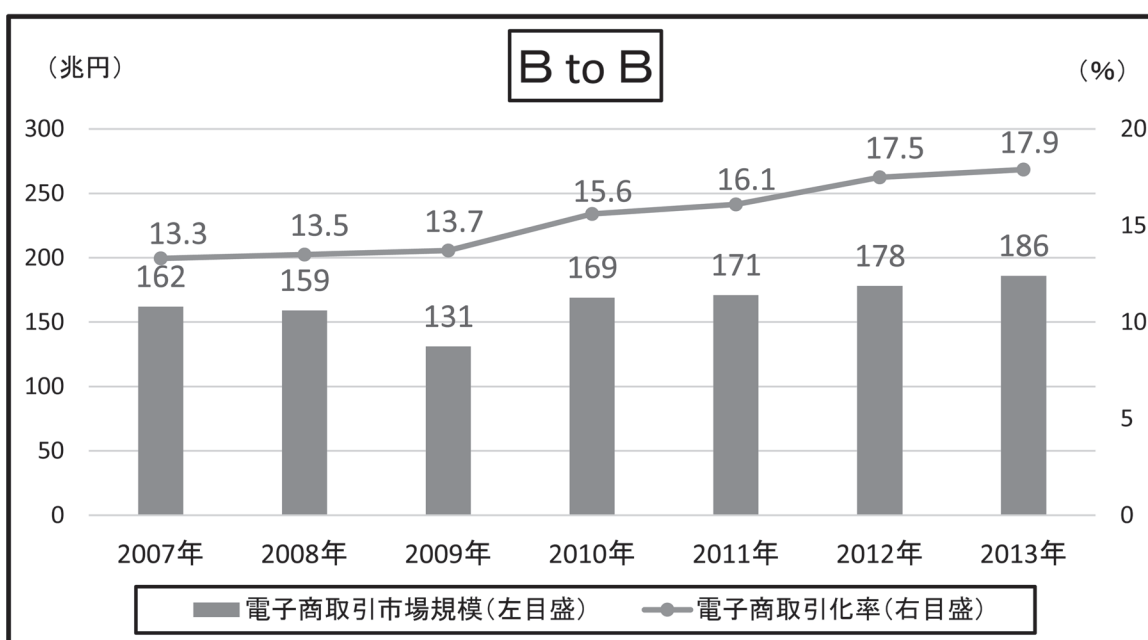
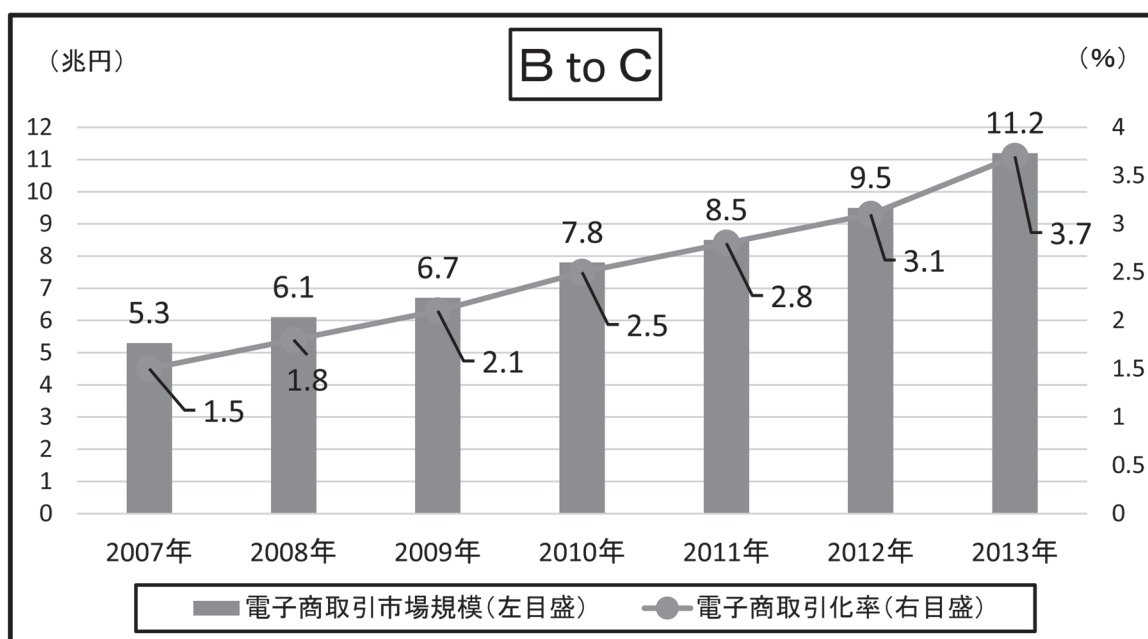
B to C

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
電子商取引市場規模(左目盛)	5.3	6.1	6.7	7.8			
電子商取引化率(右目盛)	1.5	1.8	2.1	2.5			

B to B

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
電子商取引市場規模(左目盛)	162	159	131	169			
電子商取引化率(右目盛)	13.3	13.5	13.7	15.6			

■ 電子商取引の進展



B to C

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
電子商取引市場規模(左目盛)	5.3	6.1	6.7	7.8	8.5	9.5	11.2
電子商取引化率(右目盛)	1.5	1.8	2.1	2.5	2.8	3.1	3.7

B to B

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
電子商取引市場規模(左目盛)	162	159	131	169	171	178	186
電子商取引化率(右目盛)	13.3	13.5	13.7	15.6	16.1	17.5	17.9

高等学校教職10年経験者研修報告

～10年研を通して～

商業科 石 田 雄 哉

新卒として教壇に立たせていただいてから、早10年が経過した。もう10年かという思いとまだ10年かという思いが混じる。この10年で、人としても、社会人としても様々な経験をし、教員としても数多くの経験をしてきたことが思い出される。

はじめて担任を任されたときの責任感、指導力のなさに苦しんだ日々、そして卒業生を迎えた時の胸にこみ上げる想い。商業科として、生徒に教えることの大変さと達成感を感じ、各種上位検定試験や商業科目の大会へ生徒を挑戦させるという経験もすることができた。部活動でも、今まで経験したことのないような競技に携わり、いろいろな世界があることを知り、それぞれの世界の楽しさ、厳しさを感じた。また、他県との人事交流という機会を与えていただき、北海道の商業高校で様々な経験を得ることができた。秋田県だけでなく、県外の状況、方法の違い、生徒の違いなど、得たものは大変多かった。そして、その都度、多くの生徒達、先生達の支えがあったからこそ、こうして10年無事に歩んでこられたのだと、感謝している。

10年研では、そんな過去を振り返ると同時に、今の自分の状況を改めて考えることができた。教員として、また社会人として今の自分がどうであるのか、日々行っている授業、生徒への働きかけがマンネリ化せず、熱意を持って行えているのか、これからの学校運営・教育に対してどのような姿勢、ビジョンで臨んでいくのかなど、様々な視点で自分の身を振り返ることができた。中でも、澤田石税理士事務所で開催した際に大変刺激を受けた。教員と実社会の違いを学ぶことができ、実際に自分たちが授業で扱っている簿記会計の一端を窺うことができた。また、経営者と話す機会もあり、そういった方々の考え方、社会の見方など、大変勉強になった。

＜校外研修の内容＞

6／26	○本県学校教育の現状 ○質の高い授業研究を継続的に進めていくための方略	○学校の危機管理
8／5	○キャリア教育のあり方	○学校全体で取り組む情報教育
8／6	○授業作りと授業研究の実際	○これからの高校に求められる教科指導の在り方
9／4	○生徒理解と人間関係づくり ○事例を通して見た不登校・いじめ・問題行動への具体的な対応	○教師が使えるカウンセリングの技法
1／6～8	○選択研修 澤田石税理士事務所	
1／9	○教育公務員の服務 ○本県の教育課題とこれからの学校教育	○10年経験者研修のまとめ

研修の中で、これからは他の教員や学校をリードしていく存在でなければならないと訴えられた。そうなれるかはわからないが、さらに10年後、振り返った自分が誇らしいものであるよう、これからも頑張っていきたいと思う。

選 択 研 修 報 告 書

所 属 校	秋田商業高等学校	職・氏名	教諭 石 田 雄 哉
研 修 先	澤田石税理士事務所		
研 修 期 間	平成27年1月6日（火）～平成27年1月8日（木）		
1 研修の概要			
・朝礼 ・年末調整業務・年間給与データ入力 ・企業監査同行 ・会議参加（事務所経営方針の決定） ・倫理法人会参加 ・企業改善計画の作成（相談業務）			
2 研修の成果			
商業科教員として、簿記会計の学習を通して、生徒に一つの目標として位置づけている税理士事務所の実際の業務を経験できた。事務所は所長をはじめ、10名の所員がおり、それぞれが担当する企業を20社ほど持ち、それぞれの業務を行っていた。また、朝礼や事務所の各所で「税理士は企業の肉親として指導・助言を行う」などの張り紙があり、税理士としての心構えを学ぶことができた。 朝礼から参加したが、当日の各人の予定の確認はもちろん、企業理念の唱和や企業倫理に関わるような書面の読み上げなど、事務所の倫理、仕事への活力が養われるよう取り組んでいることが大変刺激になった。最終日に倫理法人会に参加し、それが基礎となっていることを知った。同時に、倫理法人会を通して、各企業の経営者と交流を深め、円滑な業務を行うためにも重要なことであると感じた。 実際の業務では、一つ目に1月の申告に向けての年末調整業務を体験した。中小企業、事業所から送られてくる書類を作成したが、税理士が各企業から頼りにされていることや、記帳代行業務など地道な作業を行って、企業を支えていることが実感できた。 二つ目に企業監査に同行した。2社訪問したが、授業で指導している簿記会計が実際はどのように運用されているかを実際に確かめることができ、大変勉強になった。授業や検定とは違い、大量のデータを照合し、合致させることの大変さがよくわかった。また、税理士が企業と一体となって、監査、記帳していくことで、本当に企業の一員のように活動しているのが印象的であった。 三つ目に事務所の会議に参加し、経営計画を所員全員で練り上げていることに感心した。計画に当たっても、しっかりと根拠を踏まえて作成しており、学校経営などにもSWOT分析を用いるなどの手法は有効ではないかと感じた。また、秋田は企業数が減ってきており、経営者も高齢化してきていることから、企業数の減少、そして税理士事務所の減少といった問題も起きうるといふ厳しい状況であることも知ることができた。 四つ目に企業改善計画にも関わった。ある企業が資金繰りに関する相談から、銀行へ融資相談を行うための計画を作成しており、こういった活動も企業を支える大きな意義を持っているのだと感じた。困っている企業を助けるという意義があり、大変魅力的な業務だと感じた。 3日間という限られた期間であったが、実際の業務に触れ、また企業の経営者の方とも話すことができ、大変有意義な研修であった。			

特定課題研究レポート

所 属 校	秋田市立秋田商業高等学校	職・氏名	教諭 石 田 雄 哉			
研 究 分 野	㊤ 教科指導 B 学級・学年・学校経営 C 生徒指導 D 進路指導 E 特別活動に係る指導 F 総合的な学習の時間に係る指導 G 特別支援教育に係る指導 H その他					
研究テーマ	研究授業における事前研究・共同研究の実施					
1 研究の概要 10年研Ⅰ期で行われた秋田大学教授阿部昇氏の講演を受け、研究授業にあたって「事前研究」と「チームでの研究」を行った。 11月の研究授業実施にあたり、研究授業日の前に2回の研究授業会を行った。その際に、自教科教員はもちろん、他教科教員へも研修部を中心に協力をお願いし、5名程度で事前研究を行った。事前研究では、主に指導案を元にして意見をいただき、教材等も事前に提示して助言をもらった。研究授業終了後も参観した先生方から助言をもらった。 また、授業は「思考型授業」を目指し、ペアワークや意見発表を交えた授業を行った。事前研究でも「発問の仕方」や「授業のねらい」など議論しやすいものになるように配慮した。						
2 成果と課題 (1) 成果 ・事前に指導案を見てもらうことで、独善的な内容にならず、明確にねらいを持って指導を行うことができた。 ・他教科の視点から考え、生徒と同じく事前知識のない状態で気づく点を指摘できた。 ・事前に複数回指導案に目を通してもらうことで、参観者がより詳細な観点で授業を参観できていた。 ・事前研究で話し合う中で、同じクラスを持っている他の教員から、研究授業で扱う内容に関連させて授業を行いたいという申し出があった。 (2) 課題 ・協力をお願いした先生方も業務を抱えており、なかなか集まらないという問題や、回毎に参加者がまちまちであるという問題があった。 ・他教科の教員に参加してもらう上で、事前知識がないために、説明をどのようにするかを工夫する必要があった。(それが授業へも生きてくると思われる) ・事前研究に参加しても、当日の研究授業を参観できない教員もあり、チームを組む段階で、研究授業までの日程を見通して依頼をする必要があった。						

Ⅱ 校内年間研修計画

秋田市立秋田商業高等学校

研修教員：石田 雄哉（商業科・1年A組担任）

校 長：鎌田 勝

教 → 教科指導等研修

生 → 生徒指導等研修

実施月日 (曜日)	研 修 内 容	研修方法・形態	全体・個 別の区別	時間割内・ 放課後の別	研修 時間	研 修 指 導 者
4/11(金)	10年研修の進め方	生 講義→一般研修	個別	内(5・6)	2	研修主任
5/23(金)	教育目標の達成と学校経営について	生 講義→一般研修	個別	内(5・6)	2	校長
6/9(月)	P T A・地域との連携について	生 講義→一般研修	個別	放	2	総務主任
10(火)	教材研究と指導案の作成指導(1)	教 授業指導	個別	放	2	商業科主任(教育実習生)
11(水)	教材研究と指導案の作成指導(1)	教 授業指導	個別	放	2	商業科主任(教育実習生)
12(木)	授業の参観と助言(1)	教 授業指導	個別	内(3)・放	2	商業科主任(教育実習生)
23(月)	教材研究と指導案の作成(1)	教 授業研究	個別	放	1	商業科主任
24(火)	教材研究と指導案の作成(1)	教 授業研究	個別	放	1	商業科主任
25(水)	教材研究と指導案の作成(1)	教 授業研究	個別	放	2	商業科主任
27(金)	授業実践に基づく授業研究(1)	教 授業研究	個別	内(3)・放	2	商業科主任・科員
7/11(金)	法規に関する事例研究	生 講義→一般研修	個別	内(5・6)	2	教頭
25(月)	高校教育の現状と課題	生 講義	個別	内(3)	1	教頭
9/22(月)	不登校・いじめ等の未然防止・早期発見及び解決策について	生 講義	全体	放	2	外部講師・生徒指導主事
23(火)	生徒分析と個人面談計画の作成	生 講義→一般研修	個別	内(2・3)	2	学年主任
24(水)	個人面談実践に基づく研究	生 一般研修	個別	放	1	学年主任
10/15(水)	保健室利用の実態について	生 講義	個別	放	1	養護教諭
17(金)	教育課程の編成・教務内規について	生 講義→一般研修	個別	内(5・6)	2	教務主任
29(水)	県商研研究大会参加	教 授業研究	全体	1日	6	主催者
11/13(木)	教材研究と指導案の作成(2)	教 授業研究	個別	放	1	商業科主任
14(金)	教材研究と指導案の作成(2)	教 授業研究	個別	放	2	商業科主任・研修主任・科員
18(火)	教材研究と指導案の作成(2)	教 授業研究	個別	放	2	商業科主任・研修主任・科員
19(水)	授業実践に基づく授業研究(2)	教 授業研究	個別	内(2)・放	2	商業科主任・科員
28(金)	教材研究と指導案の作成指導(2)	教 授業指導	個別	放	1	商業科主任(若手教員)
12/1(月)	教材研究と指導案の作成指導(2)	教 授業指導	個別	放	1	商業科主任(若手教員)
2(火)	教材研究と指導案の作成指導(2)	教 授業指導	個別	放	1	商業科主任(若手教員)
3(水)	授業の参観と助言(2)	教 授業指導	個別	内(3)・放	2	商業科主任(若手教員)
11(木)	特定課題研究の中間まとめ	生 一般研修	個別	内(6)	1	研修主任
12(金)	部活動・生徒活動に関する事例研究	生 講義	個別	内(5)	1	特活主任
16(火)	カウンセリングのあり方について	生 講義	個別	放	1	スクールカウンセラー
1/13(火)	選択研修の成果と課題	生 講義	個別	内(4)	1	校長
23(金)	進路指導の現状と課題	生 講義→一般研修	個別	内(5・6)	2	進路指導主事
2/13(金)	特定課題研究の成果と課題	生 一般研修→講義	全体	放	2	校長以下全員

実施日数 合 計	研修方法・形態別の研修日数 (時間数)				時 間 割 内 研修時間計 (a)	放 課 後 研修時間計 (b)	研 修 時 間 合 計 (a + b)
	講 義	授業研究	授業指導	一般研修			
32	14 (15)	9 (19)	7 (11)	10 (10)	26	29	55

第2学年D組 商業科(マーケティング)学習指導案

日 時：平成26年9月9日（火曜日）3校時
人 数：42名（男子21名、女子21名）
場 所：2D教室
指導者名：商業科 石田 雄哉
使用教材：マーケティング（東京法令出版）

1. 単 元 名 第4章 消費者の購買活動 第2節 消費者の購買決定プロセス

2. 単元の目標 消費者の意志決定について、心理学的な側面から理解する。
購買決定プロセスにあったマーケティングを行うことの重要性や、購買後の行動が消費者の満足を大きく左右することを理解する。

3. 単元（題材）と生徒

(1) 教材観

購買決定プロセスはいくつかあるが、その基本となる5つの段階について考察させる。また、購買後の行動によって消費者満足は変化し、次の購買に影響を与えることを理解させる。

(2) 生徒観

集中して授業に取り組むことができる。興味・関心が高い分野では積極的に発言する姿勢が見られる。基礎的な学力の定着のため、繰り返し指導することが必要である。

(3) 指導観

生徒達の実体験や普段の購買決定をもとに話し合い・自由な意見交換をさせ、購買プロセスを探究させる。それらのことを踏まえ、購買意欲を高めるマーケティング活動について考察させる。

4. 指導と評価の計画

(1) 指導計画

第4章 消費者の購買活動 第1節 消費者行動（2時間）
第2節 消費者の購買決定プロセス（1時間、本時）
第3節 新製品に対しての採用者の区分（1時間）
第4節 製品ライフサイクル（3時間）
第5節 企業と顧客の関係（1時間）

(2) 評価計画

	A. 関心・意欲・態度	B. 思考・判断・表現	C. 技能	D. 知識・理解
評価 規 準	自らの買い物を意識し、多様な商品を比較する態度を身に付けている。	自らの購買プロセスを考え、そこから一般的なプロセスを判断し、考えを表現している。	消費者の心理に合わせて、購買意欲を高める言動を行うことができる。	購買決定プロセスや購買後の活動の重要性を理解している。

5. 本時の計画

(1) ねらい

グループ活動で話し合いを行い、意見発表をさせ、普段行っている自分自身の購買心理に気づかせる。さらにその購買決定プロセスを考えた、効果的なマーケティング活動について考察させる。

(2) 展 開

	学 習 活 動	指導上の留意点	評 価
導 入 (10)	グループに分け、iPhone6を欲しいか欲しくないか、またその理由はなぜか自由に話し合う。 商品購買までに様々なことを考えている事に気づく。	発問：「iPhone6を欲しいか。」 ・自由に意見を出させる。 ・机間巡視をし、意見が少ない班には意見が出やすくなるよう助言する。 ・教科書は開かない。 ・商品を買うまでに様々な事を考えていることに気づかせる。	(A) 自らの買い物を意識し、意見を出しているか。【観察】
展 開 (30)	実際にiPhone6に買い換えるとなると、どのような事を検討するか意見を出し合い、考察する。 各班で出た意見を発表し、黒板にまとめる。 出された意見から、購買決定プロセスを見だし、ワークシートにまとめる。 購買後の行動も、購買決定に重要であることを学ぶ。	発問：「iPhone6を実際に買うとすればどのような事を考えるだろうか。」 ・司会と発表者を決める。 ・できるだけ細かく、順を追って考えるよう指導する。 ・思うような意見が出ていない場合は、追加で質問する。 ・共通事項に注目させる。 ・ワークシートを配り、教科書を開かせ、太字項目を確認させる。 ・板書をまとめる。 発問：「通信会社はどこにする」 ・アフターサービスやクレーム処理の大切さを伝える。 ・携帯電話における、通信会社を例に説明する。	(B) 段階的に購買プロセスを考察できているか。【発表】
整 理 (10)	自分がマーケティング担当者であつたら、どのような心理に注目し、どのようなマーケティング活動を行うかを考え、ワークシートに意見を書く。	発問：「自分がこの商品の売上を伸ばすとすれば、消費者のどの心理に注目し、どのような働きかけをするか。」 ・意見をワークシートに書かせ、回収する。 ・ワークシート内にロジックツリーを用いて、考えを深めさせる。 ・グループ内での意見交換をしても良いこととする。	(C) 購買プロセスを踏まえて、意見を考えることができるか。【ワークシート】

発問計画

発問1 iPhone6 を欲しいか？	ねらい - 生徒が話しやすい話題を投げかけ、話し合いのハードルを下げる。 - 購入に当たって、それぞれ様々なることを考えていることに気づく。
期待する答え - iPhone だから欲しい。【衝動買い】 - まだわからない情報が多いので、様子をみてから買う。【知覚リスク】 - 今のが古くなくてきたから欲しい。【問題認知】 〇〇が良さそう（変わらない）だから欲しい（欲しくない）。【情報検索】 - 他の機種と比べて良さそう（変わらない）だから欲しい（欲しくない）。 【代替品評価】	引き出す追加発問 なぜ、欲しい？（欲しくない？）
発問2 iPhone6 を実際買うとしたら、どんなことを考えるか？また、どういう順番に（何を優先順位にして）考えるか？	ねらい - 漠然とした理由を細分化し、どのようなことを考え、比較検討しているかに気づく。 - ある程度順序をもって（その人の優先度など）をもって、比較しており、それは人それぞれ違うことを発見する。 →購買決定プロセスの共通項に結びつける。
期待する答え - 今持っている機種や必要性を検討する。【問題認知】 - 機能、価格、デザイン、サイズが変わる……【情報検索】 - iPhone5 と変わらない、iPhone5 と変わってしまった、他の機種で十分、他よりもいい。【代替品評価】 - 人気があるからすぐに欲しい。【衝動買い】	

前のモデルが評判よかった、周りの評価がよいから。【知覚リスク】	引き出す追加発問 - なぜ、欲しい（欲しくない）か考えて。【→議論の活発化】 - 順番にどういうことを考えているか発表し合っ。【→議論の活発化】 - どんなことを優先して考える？【→プロセスを意識させる】 - 今持っている携帯電話（スマホ）には満足してる？【→ニーズがあるかどうかのポイントであることに気づかせる。】 - iPhone5 使っている人はいる？その人は、使ってみてどう？周りの人の評判はどう？【→評判も大きな影響を与えることに気づかせる。】 - なんで価格が高いと思う？（デザインがいいと思う？）【→価格（デザイン）は相対的、何かと比較していることに気づかせる。】
発問3 通信会社をどこにするか。	ねらい 購買後のアフターフォローや満足度も影響を与えることに気づく。
期待する答え - 使っていて不満はない・不満がある。【満足度】 - 販売員の態度、壊れた経験、その他サービス。【アフターサービス】	
発問4 自分が販売員だとしたら、どういう部分に注目して、どういうマーケティング活動をするか。	ねらい 購買決定プロセスや人の考えていることに焦点を当てて、マーケティング活動を考えさせる。
ワークシートの評価 【A】購買決定プロセスに注目し、購買意欲を高めるような活動を考えることができる。 【B】購買決定プロセスに注目し、自分なりに思考を深めている。 【C】購買決定プロセスを考慮せず、活動を考えている。	

平成26年度 研修会・研究会等参加者

【センター研修】

◎A講座（基本研修講座）該当者全員が受講する研修

24 新任校長研修	鎌田 勝 校長	① 5/8・9 ② 6/17
11 5年経験者研修	小西 一幸	① 9/5 ② 10/31（能代松陽）
16 授業力向上研修（8年研）	佐藤 寛仁	10/15・16
20 10年経験者研修	小林 克 石田 雄哉	① 6/26 ② 8/5・6 ③ 9/4 ④ 1/9

◎B講座（専門研修講座）学校割当てに基づいて受講する研修

7 保健体育科	佐藤 寛仁	7/10・11
11 英語科	戸田 潤子	9/3・4
13 運動部活動の在り方	高橋 伸友	5/19

◎C講座（専門研修講座）自主的に受講する研修

29 「わかる」授業と指導の「見える化」	菅原 健太	10/3
33 高等学校講師研修講座	石井 洋年 三浦 康平 佐藤 俊平 高橋 賢右 佐藤 大	① 6/12 ② 9/30

◎公開講演会

「わかる」「できる」確かな学びを保障する 授業づくり	大関 由理	7/29
-------------------------------	-------	------

※免許更新開始 佐々木ひな子・佐藤寛仁・菅原健太

【中高連携関係】

小・中・高・特別支援学校連携協議会（勝平中学校）	船木 文子 教頭 須藤あさ子 木村実樹夫 池田 孝幸 山本 正敏 藤中 由美 三浦 康平 高橋 賢右 大関 由理	5/14
勝平中学校授業参観及び各科研究協議会	須藤あさ子 奥山 桃子 千田 義人 小西 一幸 石井 洋年 三浦 康平 舟木 志保 高橋 賢右 大関 由理	11/11
勝平中学校2年生商業科目授業体験	渡辺 淳一 谷内 陽一 伊藤 雅博 小西 一幸 石田 雄哉 石井 洋年 嶋田 平大 佐藤 大 (以上、授業者) 保坂 徹 (総括)	2/17

【教育課程研究協議会】

国語	那須 淳子	8/7
数学	野呂 耕一郎	〃
地歴公民	中嶋 修子	〃
家庭	佐々木 ひな子	〃
商業	渡辺 淳一	〃
芸術（音楽）	池田 孝幸	8/18

【保健・教育相談部】

文部科学省委託事業特別支援学校のセン ターの機能充実事業	保浦 寿子 藤中 由美 三浦 康平	7/30
学校保健ゼミナール	保浦 寿子	7/31・8/1
子供の心のケア対策研修会	保浦 寿子	9/30
第112回日本小児精神神経学会・研修セ ミナー「通常の学級における多層指導モデル MIM（ミム）～つまずきのある読みを流 暢な読みへ～」	藤中 由美	11/8
性に関する協議会	保浦 寿子	2/12

【図書・視聴覚部】

学校図書館職員等研修会	那須 淳子 鈴木 佳子	8/1
-------------	----------------	-----

【理科】

高教研 理科研究大会（総合教育センター）	千田 義人	9/19～20
----------------------	-------	---------

【進路指導部】

平成26年度東北地区高等学校 進路指導協議会研究大会 秋田大会	渡辺 淳一	10/10
平成26年度専門高校就職指導等 研究協議会	渡辺 淳一	2/20～21

【保健体育】

第34回秋田県学校体育研究大会 秋田大会 研究発表	山本 正敏（授業者）	11/6
------------------------------	------------	------

【英語】

第64回全国英語教育研究大会 （県民会館・教養大）	戸田 潤子 菅生 あずさ 舟木 志保	11/6～7
------------------------------	--------------------------	--------

【商業】

第62回全国商業教育研究大会 研究発表	小西 一幸	8/6～8
---------------------	-------	-------

【センター研究発表会】

第29回秋田県教育研究発表会	工藤 隆博 教頭 野呂 耕一郎（発表者） 大関 由理 高橋 賢右	2/6
----------------	---	-----

【数学】

サイエンスリーダーズキャンプ	野呂 耕一郎	8/21～24
----------------	--------	---------

【その他】

秋田中央高校スーパーサイエンスハイ スクール探求活動発表会	野呂 耕一郎 千田 義人	2/12
----------------------------------	-----------------	------

合計 35名（教員34名）

編集後記

研修部員から一言ずつ

お忙しい中、ご協力いただきましたたくさんの先生方、ありがとうございました。
また、最後まで読んでいただいている方、本当にありがとうございます。

サッカー界の指導者の間には「学ぶことをやめたら、指導することをやめなければならない」という言葉があります。これは、過去の自分の財産に甘んじることなく、日々、様々なことにトライしながら進んでいきましょう、ということを意味しています。

これからも教材研究を充実させることはもちろん、たくさんの先生の授業を拝見し、学びながら進んでいきたいと思います。

小林 克

研修部では1年間、大関主任のリーダーシップのもと、授業公開週間、校内職員研修等を実施してきました。先生方には予想以上に積極的な御協力をいただき感謝申し上げます。個人的には「教職員の健康講座」で行ったエアロビ教室がよかったと思います。今後も行っていければ、多忙な先生方の運動不足とストレス解消に役立つことでしょう。

須藤あさ子

今年度5年経過研修を終え、改めて研修の大切さを感じました。

私たちは今一度、教育公務員特例法第21条・第22条を確認するべきであると思います。学校教育が成立するための根幹は「授業指導」です。「授業指導」が成立しなければ、「生徒指導」「進路指導」などの指導は成り立ちません。研修部に携わり様々な形で研修を運営してきましたが、生徒たちに修学を促す立場である教員は絶えず「研修」を行うべきと強く感じた1年でした。

小西 一幸

研修集録にご協力いただいた先生方、お忙しい中、大変ありがとうございました。集録にはそんな先生方の貴重な経験が詰まっています。私自身も10年研で様々な研修をし、自身を磨くことができました。ありがとうございました。

石田 雄哉

学ぼうとする意志がまったくない生徒にはどんな授業を展開しても無意味だろう。すでに身に付けている知識に関する授業もまた時間の浪費である。そして、これらは我々の研修態度、研修内容の精選にもそのままあてはまる。戒めとしたい。

三浦 康平

「授業公開週間」で自教科のみならず、他教科の先生方からもたくさんのことを学びました。たとえ、教科は違っても自分の授業に生かせる点はたくさんあると思います。専門性の向上以外にも、視野を広げる、視点を磨く、ということも研修の大事な要素なのかな、と思いました。

舟木 志保

「今年度は研修テーマを決めよう」。そして決まったのが「個の学力を高めるための授業改善」。1年間、職員室の正面に高々と掲げられていました。生徒一人ひとりを意識した、なかなかいいテーマだったのではないかと横断幕を見ながら今改めて思っています。

平成26年度もこの研修集録発行をもって終了します。横断幕を下ろす時期が来ました。心なしか寂しさを感じますが、また、新たなテーマが掲げられることを楽しみにしています。

最後になりましたが、本集録に寄稿・協力してくださった先生方、最後まで読んでくださったすべての方々に感謝申し上げます。

大関 由理



～この3月をもって、須藤あさ子先生と那須淳子先生がご勇退なさいます。研修部員である須藤先生にはもちろんのこと、那須先生にもさまざまな研修の場面でご尽力いただきました。いついかなる時も労苦をいとわない姿勢、笑顔と柔らかい物腰で誰に対しても分け隔てのない人柄で、多くの信望を集めていらっしゃいました。今まで本当にありがとうございました。～

平成26年度 研修集録

発行日 平成27年3月31日

発行者 秋田市立秋田商業高等学校

〒010-1603 秋田市新屋勝平台1-1

T E L 018-823-4308～9

F A X 018-823-4310

印刷所 株式会社フロム・エー

題字・校訓揮毫 熊谷 弘(旧職員)



校 訓

感謝
勤勉
鍛鍊